

事後評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会

平成22年6月18日（金）

研究課題	自然環境のもたらす保健休養上の効用に関する研究	
研究期間	平成20年度～21年度	
	評価項目	平均点
	1 研究課題選定の妥当性	4.2
	2 目標の達成度	3.8
	3 研究成果の活用及び実用化の可能性	3.2
	4 今後の発展性	3.6
	5 総合評点	4.0
<p>人の脳の働きを活性化させることが推定されている超高周波音が、滝や葉擦音に含まれること、さらに高原滞在（運動）が活性酸素による傷害を軽減することなどを明らかにしており、評価できる。</p> <p>今後、同じ条件下において他の音（お祭りの音、太鼓の音など）との比較検討やビリルビンの産生量とそれを発現させる関連遺伝子の関係解析なども含め、得られたデータの再現性に関する検討も積み重ねることにより、研究の一層の向上が期待される。</p>		